

日本の自然史博物館のネットワークによる自然史標本情報の発信
松浦啓一(国立科学博物館)

Digitization of Natural history Collections by Networks of Natural History Museums in Japan
Keiichi Matsuura (National Science Museum)

生物多様性情報の集積およびその利用は、学術的要求のみでなく、環境保全や生物資源の利用に対するニーズの高まりから社会的・政策的に必須になってきた。わが国では、これまで博物館や大学等の標本情報の電子化は、担当者の個人的な努力によって進められてきた。しかしながら、それらの大部分は個人の研究に資するために構築したものであったり、担当者自身の標本管理や記録を目的としていることが多かった。特に大学ではこのような傾向が強かった。一方、自然史系博物館においては、標本データベースを標本管理のために作成している例が多く、データベース構築を博物館全体で行ったり、研究部や部門ごとに一定のフォーマットで作成している例も見られる。しかし、そのような場合でも異なる博物館や同一の博物館内の異なる研究部門において、統一されたフォーマットを使用している例は決して多いとは言えない。また、自然史系博物館においても個々の研究者ごとに標本データベースを作成している例が多い。

従来、それぞれのデータベースは独自に構築されてきたため、同じ生物群を扱っているながら、「データ項目や記述形式が異なる」、「プロトコルの標準化が行われていない」、「日本語のみの入力である」等の状況にあり、横断的な相互利用が困難であったり、学術的な利用が難しい現状となっている。したがって、日本全体の標本情報を俯瞰的に、あるいは横断的に利用しようとしても困難であった。日本語による横断検索すら困難な状況であったため、英語による横断的な情報検索は不可能に近かったと言えるであろう。

一方、2001年から開始されたGBIFプロジェクトは全地球的規模で大量の生物多様性情報をインターネット上で利用できるようにすることを目的としている。日本はアメリカと並んで最大の拠出金をGBIFに提供しているが、前述の状況を反映して、データ提供数は拠出金の金額とは対照的に、非常に少なかった。この状況を打開するために2年前に日本にもGBIFノードが構築され、博物館関係のノードが昨年度に国立科学博物館に設置された。自然史系博物館にとって自らの存在意義を示す大きなチャンスが到来したと言える。国立科学博物館を中心とする自然史系博物館関係者は自然史標本情報の横断的検索を実現し、国内そして国外への標本情報発信のため、以下の活動を行っている。

(1) 自然史系博物館の研究者間の交流を促進する、(2) 研究集会を開催し、自然史標本を取りまく課題を摘出し、その解決を目指す、(3) 標本情報の電子化と横断的検索を促進するための具体的な活動目標を設定する、(4) 博物館の規模は様々であるため、大規模博物館でなくても標本電子化プロジェクトに参画できる方法を探る、(5) 標本情報の電子化フォーマットは博物館研究者の合意に基づき、既存のデータベースから情報を提供しやすいものとする、(6) 共通のフォーマットで標本情報を提供するため、ファイル変換ツールを作成して、参加機関や研究者が利用できるようにする、(7) 標本情報を活用したプロジェクトを展望し、外部資金の獲得など、博物館関係者によるプロジェクトの発展を目指す。

これらの視点に基づいて昨年度に自然史系博物館研究者による研究集会を3回開催し、西日本の自然史系博物館や国立科学博物館等が標本情報を共通のフォーマットに変換して博物館ノードから大量の標本情報を国内・国外に向けて発信できるようになった。今年度は東日本の博物館の参加を促し、さらに広範な地域からの標本情報の提供を行う。また、GBIFプロジェクトと並行して、国立科学博物館を中心とする博物館はインターネット上に博物館情報を提供するサイエンス・ネット事業を進めている。現時点で160館を超える博物館の展示・教育普及活動に関する情報をWEB上で検索できるようになっている。今年度はこの活動をさらに強め、自然史系博物館の様々な情報提供を推進する。

Data Providing System through Networks of Natural History Museums in Japan

Specimen data of many Japanese museums available through WEB

Establish a portal site at National Science Museum and search system; transform data format for GBIF

